



Structure Heart Disease intervention

地域連携情報誌

vol.51
2024年11月

いのちの誕生から生涯にわたって地域住民の健康を支え、頼られる病院であり続けます



循環器内科主任科部長
(兼) 心臓血管センター副センター長
(兼) 集中治療部副部長

角谷 誠

日本は、1970年に高齢化率7%を越える高齢化社会に、1994年に14%を越える高齢社会に、2007年に21%を越える超高齢化社会に突入しました。その後も高齢者人口は増える一方です。人口動態としては年々人口は減ってきていますが高齢者の割合は増えています。それに伴い心不全患者の数も増加しています。今後数十年で年間30万人以上の高齢者が新規に心不全を発症すると試算されます。また、当東播磨医療圏でも毎年2,000人の新規高齢者心不全が発症すると試算されます。その原因となる疾患は心筋症、虚血性心疾患、心臓弁膜症など様々ですが75歳以上の後期高齢者では弁膜症関連の心不全が特に増加しています。そしてその弁膜症の中でも多くを占めるのが大動脈弁狭窄症と僧帽弁閉鎖不全症です。

超高齢化社会では大動脈弁狭窄症と僧帽弁閉鎖不全症による心不全患者と直面する機会が増加し、我々はこれに対処していく必要があります。また、高齢者の心不全は根治することがなく、入退院を繰り返しながら、QOLが低下していくため、予後は悪く、医療経済的にも問題となっています。後期高齢者心不全は、心臓だけでなく、フレイルやサルコペニア、認知症などといった特有の問題や他にも様々な疾患を抱えていることが多く、弁膜症に対するゴールデンスタンダードである外科的介入が困難であるケースが多く存在します。そういった患者にはより低侵襲な治療が必要です。

TAVI (Transcatheter Aortic Valve Implantation 経カテーテル大動脈弁留置術) や M-TEER (Mitral Valve Edge to Edge Repair 僧帽弁経カテーテルedge-to-edge修復術) といったカテーテルによる低侵襲治療は術後すぐに動け臥床の期間を短くすることにより基礎疾患への介入ができるだけでなくフレイルを進行をさせない治療でもあります。当院ではそういった治療を循環器内科医、心臓血管外科医、麻酔科医、放射線科医、臨床工学士、看護師、放射線技師など多職種からなるハートチームで行っております。このような低侵襲であるカテーテル治療を充実させていくことで超高齢化社会における高齢心不全患者の再入院サイクルを断ち、QOLを維持できるように努めていきたいと考えております。



循環器内科より

心臓構造インターベンション

Structure Heart Disease; SHD intervention

構造的な心疾患（Structural Heart Disease）は冠動脈疾患とは異なり、弁膜症など心臓の構造的な異常に起因する器質的疾患のことです。

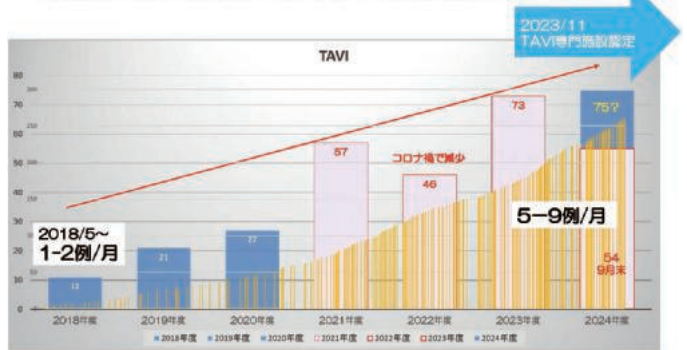
心房中隔欠損症など先天性の心疾患もあるが、高齢化が進行するにつれ、加齢によって進行する大動脈弁狭窄症、僧帽弁閉鎖不全症などの弁膜疾患が増加してきています。高齢化が進むにつれて外科手術のリスクが高くなれば、SHD (Structure Heart Disease) interventionを施行します。

1) TAVI (経カテーテル大動脈弁留置術)

当院でも2018年から経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）を導入しています。2018年5月より治療開始し、2023年度は73件、2024年度は9月末時点で53件施行しております。

導入当初は全身麻酔下で行っていましたが、2019年12月より穿刺法、2021年1月から軽鎮静下（静脈麻酔+局所麻酔）で行うようになっています。また、2023年11月よりTAVI専門施設に認定され、透析患者のTAVIも可能となりました。

加古川中央市民病院でのTAVI年度別件数と累積件数



当院のTAVIの成績

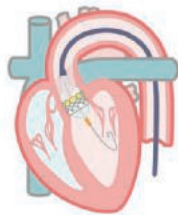
2018年5月～2023年12月
全TAVI 236例

2023年11月～
透析TAVI 6例

年齢(才)	82.5
男性	35%
手術成功率	99.2%
手術移行、死亡	0.8% (2/236) 弁破綻1・心破裂1
PM植え込み	4.2% (10/236)
有症状性脳梗塞	1.2% (3/236)
大動脈解離	1.7% (4/236)

年齢(才)	78.2
男性	50%
手術成功率	100%
手術移行、死亡	0%
PM植え込み	0%
脳梗塞	0%
大動脈解離	0%

「経カテーテル生体弁」



「提供：エドワーズライフサイエンス（同）」

TAVIの対象は80歳以上ですが、当院では75歳以上の患者さんを対象としています。

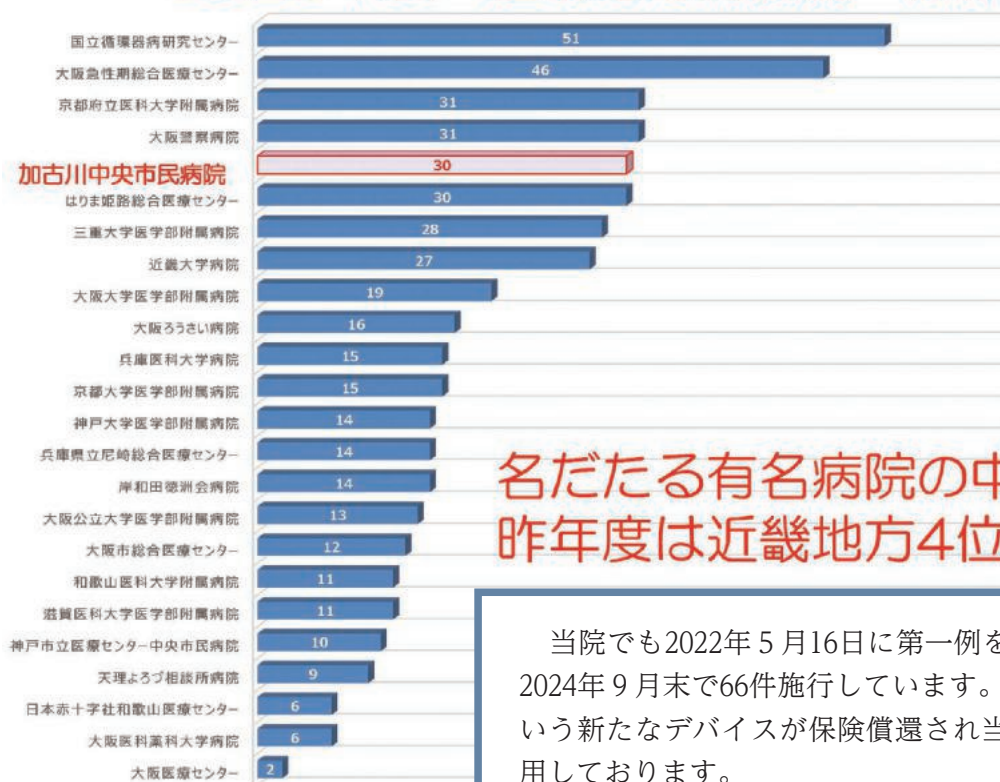
TAVIは基本的に80歳以上を対象としていますが、現状では75歳以上の方の治療にTAVIを考慮しています。実施症例ではClinical Frailty Scale 4 ± 1 とフレイルが発生している患者さんが対象となっています。

年齢(才)	82.6 ± 4.1 (68-90)
身長(cm)	151 ± 10
体重(kg)	52.7 ± 11
体表面積 (cm ²)	1.48 ± 0.2
STS	5.7 ± 4
Logistic EURO score	11.5 ± 8
Clinical Frailty Scale	4 ± 1

Clinical Frailty Scale n=74



2023年度 近畿地方病院別 MitraClip件数



名だたる有名病院の中、
昨年度は近畿地方4位の件数でした !!

当院でも2022年5月16日に第一例を行い、次第に数を伸ばし2024年9月末で66件施行しています。2023年12月にPASCALという新たなデバイスが保険償還され当院でも2024年6月から使用しております。

2023年度の当院のM-TEER件数は30件で、近畿地方の中で4位の件数であり、今年度はすでに20件施行しており、昨年度を超える症例数になる見込みです。また成績も良好で大きな問題なく施行できております。

僧帽弁閉鎖不全症に対するカテーテル治療

<M-TEER (Mitral valve Edge to Edge Repair) の特徴>

MitralClip (アボット)・PASCAL (エドワーズ) の2種類のデバイスが使用可能

TAVIとは異なり経食道心エコーガイド下に施行するため全身麻酔下で施行しています。

- ① 経大腿静脈アプローチ
- ② 心拍動下における治療が可能
- ③ リアルタイムの僧帽弁逆流の減少が評価可能
- ④ クリップ位置の再調整が可能
- ⑤ 開胸に比べ短い入院期間

連携医紹介

当院と連携いただいている医療機関をご紹介します。

あかしザウルスこどもクリニック

診療科：小児科／アレルギー科

2022年8月より明石市の大久保町で小児科・アレルギー科の診療を行っています。私は昔から子供が好きで、医学生の中から将来は子供が健やかに育つ手伝いができる小児科医になると決めていました。大学を卒業し、小児科医となった当初は病気の子供たちの治療だけをすれば良いと考えていましたが、様々な病気の子供を診察し、私自身が2児の父となり拙いながらも子育ての苦労を経験した後は、子供を健やかに育てるにはご両親が安心して子育て出来る環境を作ることが重要であると身をもって感じました。そのため当院は「医療を通してお母さんお父さんが笑顔で子育てを出来る地域づくりを」という理念をもって開業しております。小児科は子供の総合受付と考えており、その中でクリニックは一次診療を担っております。お子様のことで何科に行ったら良いかわからない、そういった不安がなくなるよう精一杯サポートさせていただきます。



院長 北尾 哲也 先生

HPは
こちら



所在地：明石市大久保町谷八木608番 5
大久保南クリニックモール
駐車場台数：40台

TEL.078-937-3564

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前診療 9:00~12:00	○	○	-	○※1	○	○※2	-
予防接種 14:00~15:30	○	○	-	○	○	-	-
午後診療 16:00~19:00	○	○	-	○	○	○※3	-

※1 木曜日9:00~12:00は診察と並行して予防接種・健診も行っています。
 ※2 現在土曜日9:00~10:00の時間は予防接種・健診専用としています。
 ※3 土曜午後診察14:00~17:00(受付13:50~16:30)

登録医のご案内

当院では、地域の医療機関の皆様と共同して、より良い医療を提供していくために『登録医制度』を実施しております。現在は350名を超える地域の先生方に登録していただいております。

医療連携をさらに充実させ、地域住民の要望に応じていきたいと考えておりますので、ご登録でない先生方におかれましては、ご検討いただけましたら幸いです。なお、当院ホームページにも登録医一覧を掲載させていただいております。

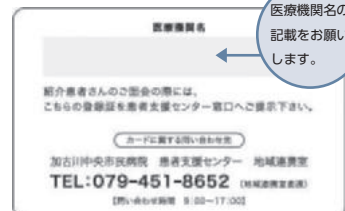
登録医の先生方には、

- ①開放病床のご利用・開放病床入院患者の手術、検査の立会・当院の診療録等医学資料の閲覧が可能となります。
- ②当院が主催する学術講演会、カンファレンスなどへ自由に参加でき、当院所有の図書の見学、複写も可能となります。
- ③インターネット予約をご利用いただけます。

患者面会のご案内

当院への来院時の流れ（ご紹介患者の面会）

- 1) 平日時間内であれば、患者支援センターにある入院支援窓口にお越しください。休日・時間外であれば、総合案内または時間外受付にお越しください。
- 2) 窓口にて上記の開放病床登録医登録証の提示をお願いします。
- 3) 病室に入られる際には、ご持参いただいた登録証を面会カードに入れていただきます。
 ※スムーズにご案内するためにも事前に当院への来院が予定されている場合には、地域連携室に連絡をお願いします。患者さんへの面会は、当院の面会手順にそって対応します。ご面会できない場合もありますのでご了承ください。



医療機関名の記載をお願いします。

在宅医療連携研修会開催のご報告

< 9月19日(木) 第2回在宅医療連携研修会開催 >

『がん患者さんのその人らしい生活を支えるために～当院における多職種の間わりについて～』をテーマに開催しました。今回、地域医療職の方より「地域でのがんリハビリが進んでいない現状があり、地域と急性期病院の双方で理解し合うことが必要ではないか」というご意見から、当院の治療・リハビリ・栄養・社会復帰のサポート状況などを知ってもらうことを目的としました。

当日は51名（院内25名・院外26名）の方の参加があり、医師・作業療法士・管理栄養士・看護師（がん化学療法看護認定看護師）それぞれの講師の視点から、現在の取り組みについて紹介しました。



講演内容

医師	食道がんの手術と術後リハビリの位置づけ
作業療法士	生活に結びつけた術後リハビリについて
管理栄養士	周術期、進行・再発期における栄養サポートについて
認定看護師	アピアランスケアについて

講演後は、パネルディスカッションで地域の現状について共有を行いました。周術期の専門性が高い医療チームの間わりを、どのように地域に繋げていくのかを考える機会となりました。



在宅医療連携研修会の開催予定

2024年12月以降の研修会を次のとおり計画しています。

当院の各種専門の認定看護師が講師となり、実践の場で役立つ内容をわかりやすくご説明するようにいたします。

ご興味のある方は、ぜひお申込みください。

開催日（予定）	テーマ	講師
12月19日	糖尿病看護	春山 裕美 糖尿病看護認定看護師
2025年 1月23日	皮膚・排泄ケア	丸山 澄美 皮膚・排泄ケア認定看護師
		橋本 円 皮膚・排泄ケア認定看護師
3月13日	摂食・嚥下障害看護	窪田 容子 摂食・嚥下障害看護認定看護師

※日程や内容、講師が急遽変更になる場合があります。
※開催の案内については、1～2ヶ月ほど前に案内させていただきます。



お問い合わせ先

加古川中央市民病院患者支援センター在宅医療連携研修会担当
担当：森岡・庄(しょう)
TEL：079-451-8652(直通) FAX：079-451-8654(直通)

